

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100150		
法人名	株式会社 共壽		
事業所名	グループホーム第二江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外淵4丁目101番地		
自己評価作成日	令和3年7月6日	評価結果市町村受理日	令和3年10月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2192100150-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和3年10月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・各利用者様の生活習慣や嗜好の把握に努め、日常生活の中に取り入れて援助している。
 ・毎月、楽しい時間を過ごして頂けるように行事を計画し実施している。季節を感じて頂けるような催しや行事食、おやつを提供を心掛けている。
 ・重度の利用者様もみえ、看取りケアも行っている。穏やかに安心して過ごして頂けるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「心穏やかに安らぎのある生活を過ごせるよう笑顔と思いやりの心をもって支援する」を理念として、笑顔が絶えないケアを実践している。コロナ禍で外出やボランティアとの交流が中断しているが、利用者のできる事ややりたい事が継続できるように、職員のエレクーン演奏で歌を歌う、カラオケを楽しむ、体操する、洗濯物たたみや拭き掃除をする等で、安心して穏やかに過ごせるようにしている。常勤の看護師がおり看取りにも対応できる体制にしている。本部での各種委員会を中心に年間計画にて質の向上につなげる研修体制が整い、育児休業制度の活用等、子育て中の職員にも配慮した働き方ができ、勤続年数の長い職員も多く利用者とも良好な関係を築いている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の全体会議(現在はユニット会議)にて、理念の唱和と職員の心得の唱和をしている。また、職員の目の付く場所に掲示し理念の浸透を図り日頃のケアに繋げている。	全体会議、毎日の申し送り時に理念を唱和し、意識してケアできるようにしている。ユニット毎に年目標を立て、理念の共有と話し合いをしている。一つの家族のように笑顔で心穏やかに過ごせるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍であり敷地内での散歩のみであり、地域へ出掛けることが出来ない現状である。	ボランティア、保育園児や中学生との交流は、コロナ禍で中断している。自治会に加入し、新しくできた公園の情報をもらう等、住民や地域とつながれるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて自治会長、民生委員、市高齢課、駐在所、消防署の方へ出席して頂いている。(現在は書面にて報告、返信を頂いている)事業所の状況をお伝えし、理解と協力を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて質問や評価、ご意見を頂き、今後活かせるよう取り組んでいる。地域の様子や災害等についても話し合いをしている。	書面会議であるが、事前にメンバーから意見をもらい、活動状況や事故状況等を家族にも報告している。自治会長、駐在所所員や消防署署員がメンバーにいて、定期的に的確な助言や情報をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市高齢課、地域包括と連絡を取り合えるようにしている。運営推進会議にも担当者へ出席して頂き対応をお願いしている。	書類提出時に事業所の実情を伝えている。事故については経過と予防策を報告し、市の助言を得ている。ZOOM研修やメールで介護保険制度や補助金等の情報を得ている。感染症予防物品の寄付を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修(オンライン研修)の参加や委員会からの情報を基に、職員の全体会議で報告を行い、勉強会を開催している。インターネットや参考書等から、新しい情報を得る事や理解に努めている。	身体拘束廃止に関する指針を定め、委員会を開催し職員への研修を実施している。行動を制止するような言葉遣いにも注意し拘束しないケアに努めている。チェックリストで振り返り、ポスターを作成し意識啓発、ユニット会議で検討や話し合いをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止・ケアの質向上委員会が中心となり、身体拘束の実態調査やケアの状況についてトップマネジメント会議の場で報告する等、安易に拘束や虐待に繋がらないよう取り組み、職員間でも毎月話し合いを行い防止に努めている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学んだ事や委員会からの資料を活用し、勉強会を行っている。又、必要に応じて活用出来るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時には説明を行い、書面にて理解・承諾を得ている。又、ご質問等には窓口(担当者)を設置し対応出来るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	無記名のご家族アンケートを実施しご意見を伺っている。又、面会時や電話にて利用者様の日頃の様子をお伝えし、ご意見ご要望をお聞きしている。	ガラス戸越しの面会時、日用品持参時や必要時の電話で意見や要望を聞いている。毎月、利用者の近況報告と日頃の写真を添えて家族に送付し、返信用封筒を入れて意見を言いやすくしている。毎日の過ごし方の意見があり取り入れた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の個別面談を年2回実施し、意見や提案を聞く機会を設けている。又、会議でも発言出来る場をつくり、業務改善に繋げていけるよう努めている。	管理者と年2回の個人面談で、希望する働き方や意見が言える体制がある。毎月のユニット会議や行事の企画書等で意見を出し、見守り体制の改善等をしている。希望休や提案も言いやすく働きやすい環境にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の事情を踏まえた雇用形態や休日希望の配慮をし働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修における年間計画を立て、外部研修(オンライン研修)に参加した職員には研修費、給与を発生し、一人でも多くの職員が受講し学べる機会を確保出来るよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	トップマネジメント会議で法人内の9事業所の管理者同士が勉強会や情報交換を行いサービスの質の向上に向けた取り組みをしている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の面談では安心して頂けるような声掛けに配慮し、ご本人の困りごとや不安、ご要望を傾聴し寄り添えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困りごとやご要望、ご意向を伺い、ご家族の立場に立って支援が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向を伺い、提供出来るサービスの提案や説明を行い、必要なサービスが提供出来るよう努めている。安心して利用して頂けるような支援を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の尊厳を大切にし、ご本人の思いに寄り添いながら共に安心して支え合う関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は面会制限がある為、手紙、写真、電話等にて状態報告を行い、ご家族と情報を共有し支えていく関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの物や写真等を持参して頂き、支援に努めている。面会や外出が出来るようになればご家族やご友人と過ごして頂けるよう配慮していく。	家族、親族や友人等との面会ができない為、「声を聞きたい、話をしたい」等の希望時は電話をかけている。昔の写真を見たり、家族から収穫した果物や野菜をもらったりすると思えば出話をして馴染みの関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が互いの関係性を見極め、個人の生活のペースを大切にしながらも互いに関わりを持ち、支え合えるよう支援に努めている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、困りごと等、必要に応じて相談に応じられるよう支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いやご希望をお聞きし把握に努めている。困難な方はご家族や関係者の方から情報を頂き、ご利用者本位に添えるよう考慮している。	入居時に思いややりたい事を聞いたり、生活歴から推測したりして把握している。顔色や雰囲気の違いを感じ取り、思いをそっと聞いたり入浴時に聞いたりしている。困難な人には、行動や仕草で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に協力をお願いし、生活歴・生活習慣等の情報を頂いている。生活歴・生活習慣、ご本人の嗜好等を把握しケアに繋げていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活パターンの把握に努め、生活の中での気づきを職員間で共有し把握出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向をお聞きし、日頃の様子や関わりを反映し、毎月のモニタリング・全体会議や担当者会議での意見を基に介護計画を作成している。	本人や家族に意向を聞き医師の意見も参考に介護計画を作成している。介護記録は、目標を符号化し連動して生活状況が記入できるようにしている。3ヶ月毎の担当者会議及び毎月のモニタリングで必要時は見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にご本人の言葉や様子を記録し、ケアの状況や気づき等を細かく記入している。気づきを申し送りや会議で共有し介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定概念に捉われないよう、その時々状況を把握、理解し、ニーズに対し検討しながら取り組んでいる。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心・安全に地域で暮らせるように、警察・消防の巡回、意見交換をさせて頂いている。訪問理美容の利用にて気分転換を図っている。ボランティア受け入れが再開出来るようになれば関わられる機会を作っていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日、バイタル測定を行い、異常の早期発見・早期治療に努めている。異常があれば早急にかかりつけ医に報告し、早期対応を行っている。方向性は家族のご希望に沿いながら、口頭・書面で連携し、家族の思いを医師に伝え連携を図っている。	入居時に、定期的な訪問診療や緊急時の早期対応等ができる協力医に全員が変更している。状態に合わせて医師が家族に説明する場合もある。専門医受診時は、職員が同行し医師や家族に説明している。希望で歯科の訪問診療を利用する人もいたが中断している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は介護を通して観察を行い、異常の早期発見に努め、少しでも異常があれば看護師に報告し連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリー・ケアプランの情報を持参し、看護師・介護支援専門員が同行、情報共有に努めている。家族への連絡、同行の依頼をしている。退院時も看護師・介護支援専門員が立ち合い、帰設後の生活に困らないよう連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期のご意向を家族より(本人も含む)紙面上で頂き、再確認しながらより良い方向性を導けるよう、かかりつけ医と連携を図りながら支援している。	入居時に事業所の指針を基に家族に説明している。状態に合わせて医師や職員が家族に説明し、看取りについて話し合い意向を確認している。看取り希望時は、看護師が指導し職員で情報を共有し看取りプランを立てて、家族の協力も得て対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回の会議や日頃の申し送りで、利用者様の特徴を理解し、急変時や事故発生時の対応が出来るように、情報共有し初期対応に努めている。又、介護職と看護師が連携を図り備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを活用し年に2回の防災訓練を実施予定としている。昨年はコロナ禍でもあり実施がなかなか難しく、参加の呼びかけも出来ない現状で計画思案中である。	通報訓練、水害や火災想定避難訓練を、利用者も一緒に滑り台やらせん階段を使用して実施している。水、食料やオムツ等を備蓄している。非常災害時に住民の避難場所として提供できる旨を地域に伝えてある。コロナ禍でもあり住民の協力や夜間想定訓練ができていない。	職員体制が手薄となる夜間の非常時に落ち着いて避難誘導や適切な対応ができるように夜間想定訓練を実施されたい。また、様々な機会に住民の協力が得られる働きかけが望まれる。

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を尊重した言葉かけの心掛けや、プライバシーを確保しつつ安心して過ごして頂けるような環境づくりに努めている。名前をお呼びする時はご本人の希望に合わせた呼称でお呼びしている。	表情を見ての声かけや不愉快にならない言葉遣いや態度に注意している。本人の呼称や居室の表札は希望に合わせている。接遇チェックリストを実施し、ユニット会議後に接遇の勉強会を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思い、希望される事等をご本人やご家族からお聞きし、ご希望に添えるようなケアが出来るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせ、各利用者様それぞれが安心して過ごせる場所で過ごして頂けるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で衣類を選んで頂いたり、訪問理美容の際にはご本人のご希望に合わせてヘアカットを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に適した食事形態や使いやすい食器で提供している。片付け等、利用者様と一緒にを行うようにしている。現在はコロナ禍の為、食事は利用者様と密接にならない距離を取り食べるようにしている。	誕生日の希望メニュー、季節の行事食、寿司・鰻やハンバーガーのテイクアウト利用等で楽しみな食事にしている。カップ麺を食べたい希望にカップ麺昼食会を開いたり手作りおやつを多くしたりしている。お盆や食器拭き等のできることを一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を介護記録に記載し摂取状況を把握している。又、月1回の体重測定を行っている。水分摂取が難しい方にはお茶ゼリー等を活用し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの見守り、介助を行っている。ご自身で出来ない方や拒否される方には、タイミングを見ながらその方に合った物品を使用し介助している。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者様の排泄パターンや尿量等の把握に努め、一人一人に合わせた介助方法を心掛けている。	排泄パターンを把握し小声での声かけや行動で誘導している。立位困難な人は二人介助し、パッドの種類を検討し自立に向けた支援をしている。夜間のみポータブルトイレ使用の人もある。紙パンツから布パンツになった人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や余暇時間に適度な運動をする機会を作っている。水分摂取やその方に合った薬の服用をして頂き対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低でも週2回は入浴して頂けるよう支援している。利用者様の身体状況に合わせた浴槽の利用や介助方法を考慮している。	湯温、入浴時間、ボディソープやシャンプーは希望に合わせている。体調や状態に合わせて個浴、機械浴、足浴や清拭等に行っている。湯船で歌を歌う人や会話を好む人等、楽しみな入浴となるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の安心できる場所で過ごして頂いている。リビング自席やソファ、各居室等、その時の利用者様の状況に合わせて援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前に職員間で確認しながら服薬介助を行っている。変化等がある時は看護師に確認を取って対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月、季節の行事や誕生日会を行っている。利用者様の生活歴や嗜好を伺い、日々の余暇時間に取り入れている。現在はボランティア等の受け入れは中止しているが今後可能となれば再開したい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は面会も制限させて頂いており、外出も行っていない。苑内や敷地内の散歩にて気分転換を図っている。	自由な外出ができない為、夏祭りは浴衣を着て鰻丼を食べる、木に折り紙の花を飾り花見気分になる、願い事の短冊を笹に飾り七夕祭りをするなど気分転換できるようにしている。屋上で散歩する、お茶を飲む、おやつを食べる等で外気に触れる機会を作っている。	

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はご自身でお金の管理をされている利用者様はみえない。必要なものはご家族様と相談の上、対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様・ご家族の希望により電話の取次ぎを行ったり、代弁にてご家族様に要件をお伝えしたりしている。又、毎月、職員から利用者様のご様子をお手紙にてお知らせしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明やエアコンの調整を行い、利用者様が快適に過ごして頂けるよう配慮している。又、リビングでのテーブルやソファの配置を利用者様の状態に合わせて配置している。	季節の飾り物を吊り下げ、季節毎の壁画・折り紙作品や行事写真を飾っている。置コーナーで洗濯物を畳んだり寝転がったり自由に過ごせるようにしている。空気清浄機やテーブルにビニールカーテンを設置し、室温確認と共に日に4回の換気とアルコール消毒で感染症予防にも注意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係を把握し、共用スペースでそれぞれ思い思いの過ごし方が出来るよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には利用者様の使い慣れた寝具や家具、写真等を持ってきて頂いている。毎日、環境整備を行い、快適に過ごして頂けるよう心掛けている。	居室入口に部屋毎に違う柄で作成した職員手作りの暖簾をかけている。使い慣れたTV、ラジオ、ダンス、手鏡や時計等を持ち込み、誕生カードや家族写真を飾っている。本や新聞を読んだりTVを見たり自由に過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居施設は国道に面しており、安全面からもテンキーロック式にしている。開閉に制限がある分、施設内での生活に窮屈さを与えないよう考慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100150		
法人名	株式会社 共壽		
事業所名	グループホーム第二江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外淵4丁目101番地		
自己評価作成日	令和3年7月6日	評価結果市町村受理日	令和3年10月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2192100150-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和3年10月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の全体会議(現在はユニット会議)にて、理念の唱和と職員の心得の唱和をしている。また、職員の目の付く場所に掲示し理念の浸透を図り日頃のケアに繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍であり敷地内での散歩のみであり、地域へ出掛けることが出来ていない現状である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて自治会長、民生委員、市高齢課、駐在所、消防署の方へ出席して頂いている。(現在は書面にて報告、返信を頂いている)事業所の状況をお伝えし、理解と協力を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて質問や評価、ご意見を頂き、今後活かせるよう取り組んでいる。地域の様子や災害等についても話し合いをしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市高齢課、地域包括と連絡を取り合えるようにしている。運営推進会議にも担当者へ出席して頂き対応をお願いしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修(オンライン研修)の参加や委員会からの情報を基に、職員の全体会議で報告を行い、勉強会を開催している。インターネットや参考書等から、新しい情報を得る事や理解に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止・ケアの質向上委員会が中心となり、身体拘束の実態調査やケアの状況についてトップマネジメント会議の場で報告する等、安易に拘束や虐待に繋がらないよう取り組み、職員間でも毎月話し合いを行い防止に努めている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学んだ事や委員会からの資料を活用し、勉強会を行っている。又、必要に応じて活用出来るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時には説明を行い、書面にて理解・承諾を得ている。又、ご質問等には窓口(担当者)を設置し対応出来るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	無記名のご家族アンケートを実施しご意見を伺っている。又、面会時や電話にて利用者様の日頃の様子をお伝えし、ご意見ご要望をお聞きしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の個別面談を年2回実施し、意見や提案を聞く機会を設けている。又、会議でも発言出来る場をつくり、業務改善に繋げていけるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の事情を踏まえた雇用形態や休日希望の配慮をし働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修における年間計画を立て、外部研修(オンライン研修)に参加した職員には研修費、給与を発生し、一人でも多くの職員が受講し学べる機会を確保出来るよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	トップマネジメント会議で法人内の9事業所の管理者同士が勉強会や情報交換を行いサービスの質の向上に向けた取り組みをしている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の面談では安心して頂けるような声掛けに配慮し、ご本人の困りごとや不安、ご要望を傾聴し寄り添えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困りごとやご要望、ご意向を伺い、ご家族の立場に立って支援が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向を伺い、提供出来るサービスの提案や説明を行い、必要なサービスが提供出来るよう努めている。安心して利用して頂けるような支援を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の尊厳を大切にし、ご本人の思いに寄り添いながら共に安心して支え合う関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は面会制限がある為、手紙、写真、電話等にて状態報告を行い、ご家族と情報を共有し支えていく関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの物や写真等を持参して頂き、支援に努めている。面会や外出が出来るようになればご家族やご友人と過ごして頂けるよう配慮していく。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が互いの関係性を見極め、個人の生活のペースを大切にしながらも互いに関わりを持ち、支え合えるよう支援に努めている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、困りごと等、必要に応じて相談に応じられるよう支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いやご希望をお聞きし把握に努めている。困難な方はご家族や関係者の方から情報を頂き、ご利用者本位に添えるよう考慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に協力をお願いし、生活歴・生活習慣等の情報を頂いている。生活歴・生活習慣、ご本人の嗜好等を把握しケアに繋げていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活パターンの把握に努め、生活の中での気づきを職員間で共有し把握出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向をお聞きし、日頃の様子や関わりを反映し、毎月のモニタリング・全体会議や担当者会議での意見を基に介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にご本人の言葉や様子を記録し、ケアの状況や気づき等を細かく記入している。気づきを申し送りや会議で共有し介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定概念に捉われないよう、その時々状況を把握、理解し、ニーズに対し検討しながら取り組んでいる。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心・安全に地域で暮らせるように、警察・消防の巡回、意見交換をさせて頂いている。訪問理美容の利用にて気分転換を図っている。ボランティア受け入れが再開出来るようになれば関わられる機会を作っていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日、バイタル測定を行い、異常の早期発見・早期治療に努めている。異常があれば早急にかかりつけ医に報告し、早期対応を行っている。方向性は家族のご希望に沿いながら、口頭・書面で連携し、家族の思いを医師に伝え連携を図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は介護を通して観察を行い、異常の早期発見に努め、少しでも異常があれば看護師に報告し連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリー・ケアプランの情報を持参し、看護師・介護支援専門員が同行、情報共有に努めている。家族への連絡、同行の依頼をしている。退院時も看護師・介護支援専門員が立ち合い、帰設後の生活に困らないよう連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期のご意向を家族より(本人も含む)紙面上で頂き、再確認しながらより良い方向性を導けるよう、かかりつけ医と連携を図りながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回の会議や日頃の申し送りで、利用者様の特徴を理解し、急変時や事故発生時の対応が出来るように、情報共有し初期対応に努めている。又、介護職と看護師が連携を図り備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを活用し年に2回の防災訓練を実施予定としている。昨年はコロナ禍でもあり実施がなかなか難しく、参加の呼びかけも出来ない現状で計画思案中である。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を尊重した言葉かけの心掛け、又、プライバシーを確保し安心して過ごして頂けるような環境づくりに努めている。ちゃん呼びなどはしないように注意し、人生の先輩というひとり一人の人格を尊重しながら言葉かけに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思い、趣味、希望される事等をご本人やご家族からお聞きし、ご希望に添えるようなケアが出来るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護側の都合にあわせるのではなく、各利用者様の思いを尊重し、その人らしい時間の過ごし方が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で衣類を選んで頂いたり、訪問理美容の際にはご本人のご希望に合わせヘアカットを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に適した食事形態や使いやすい食器で提供している。片付け等、利用者様と一緒に行うようにしている。現在はコロナ禍の為、食事は利用者様と密接にならない距離を取り食べるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を介護記録に記載し摂取状況を把握している。又、月1回の体重測定を行っている。水分摂取が難しい方にはお茶ゼリー等を活用し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの見守り、介助を行っている。ご自身で出来ない方や拒否される方には、タイミングを見ながらその方に合った物品を使用し介助している。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者様の排泄パターンや尿量等の把握に努め、一人一人に合わせた介助方法を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や余暇時間に適度な運動をする機会を作っている。水分摂取やその方に合った薬の服用をして頂き対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低でも週2回は入浴して頂けるよう支援している。利用者様の身体状況に合わせた浴槽の利用や介助方法を考慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の安心できる場所で過ごして頂いている。リビング自席やソファ、各居室等、その時の利用者様の状況に合わせて援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前に職員間で確認しながら服薬介助を行っている。変化等がある時は看護師に確認を取って対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月、季節の行事や誕生日会を行っている。利用者様の生活歴や嗜好を伺い、日々の余暇時間に取り入れている。現在はボランティア等の受け入れは中止しているが今後可能となれば再開したい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は面会も制限させて頂いており、外出も行っていない。苑内や敷地内の散歩にて気分転換を図っている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はご自身でお金の管理をされている利用者様はみえない。必要なものはご家族様と相談の上、対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様・ご家族の希望により電話の取次ぎを行ったり、代弁にてご家族様に要件をお伝えしたりしている。又、毎月、職員から利用者様のご様子をお手紙・写真などで、お知らせしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明やエアコンの調整を行い、利用者様が快適に過ごして頂けるよう配慮している。又、リビングでのテーブルやソファの配置を利用者様の状態に合わせて配置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係を把握し、共用スペースでそれぞれ思い思いの過ごし方が出来るよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には利用者様の使い慣れた寝具や家具、写真等を持ってきて頂いている。毎日、環境整備を行い、快適に過ごして頂けるよう心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居施設は国道に面しており、安全面からもテンキーロック式にしている。開閉に制限がある分、施設内での生活に窮屈さを与えないよう考慮している。		